

## 実習先の病院で学生が感じた患者のリスクについて

作業療法士学科昼間部

### 【背景】

臨床現場ではリスク管理が重要視されている。作業療法士協会の事故報告書<sup>1)</sup>によると、転倒・転落が圧倒的に多い。また、岩瀬ら<sup>2)</sup>は経験年数が少ないほど医療事故を起こしやすいと述べており、経験の少ない学生はリスク管理に対し、どのように捉えているのかに目を向ける必要があると感じた。そこで我々は分野別に医療系専門学生が捉えるリスクの認識を明らかにする。

### 【対象および方法】

作業療法士学科（見学実習後 39 名，評価実習後 32 名，計 71 名），理学療法士学科（見学実習後計 42 名），看護学科（計 172 名）に在籍する，合計 285 名の学生を対象としたアンケート調査を行い，配布数 303 枚に対し，回収率 94.1%のアンケートを対象とした。

調査項目は「性別」「年齢」「学科名」「学年」「実習名」「実習先の領域（身体・精神・発達・老年期・その他）」「患者様の疾患名」「どんなリスクがあると感じたか（場所・時間帯・どんな作業・動作をしていて）」「服薬状況」「患者様の睡眠時間」「自分が医療事故を起こす不安はあるか」とし，今回調査し集計をとった。

倫理的配慮として，研究参加の自由について紙面と口頭で伝え，アンケートの回答をもって同意とした。

### 【結果】

「服薬状況を把握しているか」の回答で，「はい:48%」，「いいえ:52%」という結果で，学生の半数以上が服薬状況を把握していないことが分かった。しかし，看護学生は「はい:74.7%」という結果で看護学生の把握率が圧倒的に高かった。「リスクを感じた疾患名」で最も多かった回答は「脳血管障害:17%」2 番目に「癌:12%」，3 番目の「呼吸器疾患:11%」「骨折:11%」は同票であった。「自身が医療事故をおこす不安があるか」という質問に対して「はい:66%」，「いいえ:34%」と 30%以上の学生が不安を感じていない結果となった。また，「不安はない」との回答が PT・OT 学生より看護学生の方が多く，「あってはならないことだから」といった理由があげられた。

### 【考察】

PT・OT 学生より看護学生の方が実習時，服薬管理

の把握をしていた。看護職は対象者に投薬を行うが，PT・OT は投薬を行わないため服薬に対する意識・必要度の違いがあると考えられる。また，看護学生に「不安はない」との回答が多く，リスク管理に対して自信があるのは，PT・OT 学生よりリスクに関する教育がされている可能性が示唆される。今回のアンケート結果では，PT・OT 学生に転倒・転落のリスク場面が少なかった。そのため，PT・OT 学生の転倒・転落リスクの認識が甘く見落としているのではないか。今後，PT・OT 学生の転倒・転落に対する認識を明らかにしていく必要がある。

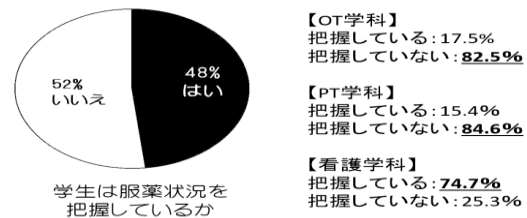


図1. 服薬状況の把握の有無

### 【まとめ】

学生の考えるリスク場面を PT, OT, 看護学生はどのように認識しているのか，また医療事故への不安を感じているのかを明らかにするため，アンケートを実施した。結果，PT, OT 学生と看護学生で服薬状況の把握の違いがあった。それが医療事故への不安の認識の違いを生んでいると考える。そのことから卒後教育の中でも知識や経験と現場判断が問われるため，医療職の養成校において「リスク管理」についてもっと学ぶべきではないかと考えた。

### 【文献】

- 1) 社団法人 日本作業療法士協会：作業療法事故実態調査・事故防止マニュアル第2版。
- 2) 岩瀬浩一，横谷浩士・他：当院リハビリテーション科におけるインシデントレポートの分析経験年数による傾向と今後の課題。第51回日本理学療法学会，2016。
- 3) 西川正一郎，平勝秀・他：当院理学療法訓練室における急変時対応のシミュレーション練習の試行（第2報）。第51回日本理学療法学会，2016。